

(様式 1)

平成 14 年度 次世代 IT を活用した未来型教育研究開発事業

研究実践計画書

1 学校名

岐阜県立 岐阜北 高等学校

2 研究実践の概要

(1) 地域素材の VOD データベースの構築

各教科が、現存する数多くの教育用コンテンツの中から、生徒の知的興味・関心を引き付ける教材を探し、利用できそうなものを実際の授業の中で検証する。そして、その妥当性・有効性を議論する。更に、本校の特色を生かすよう改良・工夫を加えて、独自のコンテンツとしてデータベース化する。

(2) 「わかる授業、楽しい授業」の実施

各教科が、どのような授業展開が、より生徒の能力・特性に応じた興味あるものになるかを考え、50 分間の授業の中の 5 分・10 分という短い時間でも、日常的にコンピュータを使用するその活用方法を研究し、試行する。更に、公開授業では、その成果を発表しあい、その検証を行う。また、授業内容をより深化させ、興味あるものとするために、インターネットを利用した調べ学習を生徒自らの課題とする。そして、生徒自身が、授業において、コンピュータを利用したプレゼンテーションを行う。

(3) 高速大容量回線を用いた学校間等の連携

TV 会議システムを利用して、学校間で生徒会相互の交流を定期的に行う。また、学校行事などを LIVE 放送として発信する。メールを活用して、海外の姉妹校と定期的に、多くの生徒が交流を行う。各クラス毎にホームページを作成し、クラス独自の情報を発信しあう。

3 年間計画 次ページ参照

研究	C P の授業活用	T V 会議による生徒会交流	T V 会議によるLIVE発信	全生徒用メール	全職員用メール	各クラスホームページ作成
4 月	C P に慣れる					
5 月						準備
6 月	教材探しとC P に習熟			設定	設定	作成（各クラスのC P 委員による作業）
7 月				試行錯誤	試行錯誤	
8 月						
9 月			試行		実施	完成掲載
1 0 月	コンテンツ作成と授業実践	試行錯誤	実施	実施		
1 1 月		本格的継続的利用				
1 2 月						
1 月						
2 月						
3 月						
備考	1 番大きな研究。公開授業でCP利用。頻繁に使用する。	他県とも、また、小・中・特殊との交流も念頭におく。	校内行事などをLIVEで校内に発信する。	海外の姉妹校（カトリンゲープル校）との交流を行う。	アレンジャー代わりとして、情報伝達を行う。	肖像権の問題などを考え、校内のみに発信する。